野坂昭如さんを悼む

写真は朝日新聞 12 月 11 日掲載のイラストレーター山藤章二さんの「野坂昭如さんを悼む」である。はじめのところに、極端にいうと、「いかがわしさのカリスマ」を持った人でした、と述べている。

文化・文芸

いかがわしさ 楽しんだ

野坂昭如さんを悼む

イラストレーター 山藤章二

「日本は瀬戸際にさしかかっている」

TBSラジオへ「最後」の手紙

永六輔さんが出演する TBS ラジオ「六輔七転八倒 90 分」には、「野坂昭如さんからの手紙」コーナーがあり、7 日放送分で野坂さんは今の日本を危惧する内容の手紙を送っていた。全文を紹介したい。

「はや、師走である。町は、クリスマスのイルミネーションに、さぞ華やかに賑やかなことだろう。ぼくは、そんな華やかさとは無縁。風邪やら何やら、ややこしいのが流行っている。ウィルスに冒されぬよう、ひたすら閉じこもっている。賑わうのは結構なこと。そんな世間の様子とは裏腹に、ぼくは、日本がひとつの瀬戸際にさしかかっているような気がしてならない。

明日は 12 月 8 日である。昭和 16(1941)年のこの日、日本が真珠湾を攻撃した。8 日の朝、米英と戦う宣戦布告の詔勅が出された。戦争が始まった日である。ハワイを攻撃することで、当時、日本の行き詰まりを打破せんとした結果、戦争に突っ走った。当面の安穏な生活が保障されるならばと身を合わせているうちに、近頃、かなり物騒な世の中となってきた。戦後の日本は平和国家だというが、たった 1 日で平和国家に生まれ変わったのだから、同じく、たった 1 日で、その平和とやらを守るという名目で、軍事国家、つまり、戦争をする事にだってなりかねない。気付いた時、二者択一など言ってられない。明日にでも、たったひとつの選択しか許されない世の中になってしまうのではないか。

昭和 16 年の 12 月 8 日を知る人がごくわずかになった今、また、ヒョイとあの時代に戻ってしまいそうな気がしてならない。　　野坂昭如 」

日経新聞 11 日にも、瀬戸内寂聴さんが「野坂昭如さんを悼む」を寄稿している。その中でも、野坂さんが「今の日本は戦前の空気そのままに帰ってゆく気配がすると、政治の不安さを強く弾劾していますね」と書かれていた。寂聴さんも「私も何やらこの日本はうすら寒い気がしてなりません」と結んでいる。　　(2015 年 12 月 14 日)